



3月定例会日程（予定）

2月

28日(木)本会議

- ・開会
- ・会期の決定
- ・諸報告
- ・市長の施策方針演説
- ・議案の上程
- ・議案説明等

3月

5日(火)本会議

- ・質疑
- ・委員会付託等

6日(水)委員会

- ・総務文教常任委員会
- ・福祉環境常任委員会

7日(木)委員会

- ・市民産業常任委員会
- ・都市建設常任委員会

12日(火)一般質問

13日(水)一般質問

14日(木)一般質問

19日(火)本会議

- ・各委員長報告
- ・質疑
- ・討論
- ・採決
- ・閉会

※本会議、一般質問は傍聴できます。
 ※開会は原則午前10時です。
 ※日程は変更になる場合があります。
 詳しいことは、議会事務局にお問い合わせください。

熊谷市議会事務局

TEL 048-524-1573（直通）

FAX 048-525-8886

E-mail gikaijimukyoku@city.kumagaya.lg.jp

埼玉県内の国公立大学に医学部の新設を求める意見書

埼玉県は、人口10万人当たりの医師数が143人（2010年12月）と全国最下位の県である。一般病床数の人口対比も全国で最も少なく、救急体制が脆弱であるため2010年度の救急搬送における最多照会回数は33回、現場滞在時間227分（救命救急センター搬送事案）という事態を生じている。同時に、2010年度の救急搬送人員は対前年比9.6%も増加しており、第一線でこれを受け入れている医師の勤務環境は過酷を極めている。

一方で、埼玉県は高齢化のスピードが全国で最も速い上に、既に高齢者（65歳以上）人口は、2010年国勢調査では146万人と全国で5番目に多くなっている。必然的に医療必要度は高くなり、埼玉県が毎年実施している県政世論調査でも、県民の要望の第1位が「高齢者福祉の充実」、第2位が「医療体制の整備」となっており、県民の切実な要望であることがわかる。今後、高齢者人口が増大していく埼玉県においては、現在の医師不足の状況を大幅に改善しない限り、県民の救命救急環境はさらに深刻なものとなり、医師の過酷な勤務実態はさらに悪化することが予想される。

そのような状況の中、県内の基幹的な病院で小児入院医療の廃止や周産期医療の休止が続いており、医師不足の解消は緊急の課題である。

しかし、埼玉県は国公立大学医学部がないという全国的にも希少な県であり、地域医療に従事する医師養成は他県に依存していると言わざるを得ない。こうした状況から、2011年9月に埼玉県議会の全議員93名による「県立大学医学部設置推進埼玉県議会議員連盟」が発足し、同年10月に「県立大学医学部設置推進に関する要望書」を埼玉県知事に提出。さらに2012年6月6日、全国市長会は国に対して社会保障制度の充実強化を求める決議を行い、その中で「地域医療の充実について、医学部を新設して地域に根差した医師を養成するなど、医師・看護師等の絶対数を確保するべく即効性のある施策及び十分な財政措置を早急に講じること」を求めている。

よって、熊谷市議会は、市民のいのちと健康を守る立場から、下記のことを求める。

記

1 埼玉県内の国公立大学に医学部を新設すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年12月18日

埼玉県熊谷市議会

内閣総理大臣 様
 文部科学大臣 様
 厚生労働大臣 様

編集
後記

ここに、市議会だより第30号をお届けします。

本号では、一般質問をはじめとする12月定例会の概要等を紹介しました。

また、お子さんにも分かりやすい表記で市議会の仕組みを説明した「おしえて！議会」を掲載しました。ぜひご家族でご覧ください。そして興味を持っていただき、もしも興味を持っていたら、インターネット中継で実際の議会の様子もご覧ください。市議会では開かれた議会を目指して様々な形で市議会会議を公開しています。会期中は傍聴もできますので、もっと議会を身近に感じていただければ幸いです。

議会報編集委員会

◎新井 正夫 ○杉田 茂実
 新井 清次 松本 富男
 松岡 兵衛 桜井くるみ
 原口 健二 林 幸子
 閑野 高広 小池 厚
 (◎委員長 ○副委員長)